

第10回 さがみはら都市経営ビジョン策定委員会 会議録

《会議録》

会議名	さがみはら都市経営ビジョン策定委員会	
事務局	企画部企画政策課	
開催日時	平成17年1月11日（火） 午後7時00分～午後8時30分	
開催場所	市役所本館2階第1特別会議室	
出席者	委員	8人（辻委員長、野中副委員長、吉田委員、西本委員、赤柴委員、津川委員、日原委員、松田委員）
	事務局	6人（宮崎部長、高橋課長、服部主幹、田辺副主幹、六反主任、水野主事）
傍聴者数	0人	
会議次第	1 議題 (1) 「(仮称) さがみはら都市経営ビジョン」提言書（案）について (2) その他 今後の予定について	

《審議経過》

(1) 「(仮称) さがみはら都市経営ビジョン」提言書（案）について

辻委員長：本日は提言書の最終まとめを行うにあたり、2つの事柄について決めていきたい。

一つは、前回提示した提言書（案）の字句や不足事項の修正案に対し合意を得ることと、もう一つは前回提案のあった都市経営ビジョンのキャッチフレーズについて検討を行ってきたい。

（辻委員長より提言書の修正案について説明）

吉田委員：これまでも一貫して述べてきた「歳入の増加策」について、前回提示された提言の内容よりも工夫された記述になっている。一点だけ意見を述べたいが、企業誘致だけでなく、将来的には政令市への移行など、行政的手法によって自由に使うことのできる自主財源の確保や単発的には補助金の獲得など歳入の増加を図る必要がある。

西本委員：同じく「歳入の増加策」について、提言書の修正案では、「企業が引き続き活発な企業活動を展開しやすい環境整備に努める」という記述があるが、この部分については、例えば、企業ニーズに応える相談窓口の設置など、企業との密接な連携を図ったより具体的なしくみについての提案を盛り込んだほうが良い。

辻委員長：「歳入の増加策」については、吉田委員の意見にあった行政内部における財源確保の重要性を提言書に盛り込んでいきたい。また、西本委員の意見にあった環境整備の具体的な内容については、企業と密接な連携を図り、企業ニーズを踏まえた総合的な施策の必要性を記述していきたい。

松田委員：提言書の修正案は、前回の議論でまとめた提言の骨子に沿った内容であるため、順当であると思われる。

津川委員：「都市内分権」について、津久井4町との合併を仮定した場合の記述が盛り込まれているが、本委員会では、合併を想定しない中での議論を前提としており、また、合併協議が行われている現況の中では、合併があった場合に新市における都市内分権のあり方を考えるのは当然のことであるため、敢えて記述することもないのではないかと。或いは表現を変える必要がある。

辻委員長：「都市内分権」に関しては、市民との議論が煮詰まっていない中で、市が安易に実施すべきものではないということと、都市内分権の実現にはステップがあり、合併が進んだ場合に、地域行政機構のあり方を十分に検証してからでないとい概に都市内分権の実践に至らないという状況があるという2つの要素を踏まえ、最もニュートラルな状態で仮定という形で記述した。皆さんの意見を伺いたい。

吉田委員：都市内分権をイメージするには、合併が最も分かりやすいが、合併を踏まえると先程の財源の話も合併特例債など議論が複雑化してしまうため、これまで相模原市単独として議論してきた中においては、できれば提言書には示さないほうが良いと思われる。

野中副委員長：合併が実現するか、しないかが定かでない中では、提言書から削除し、提言の内容を相模原市単独で整合を図ったほうが良いと思われる。

辻委員長：皆さんの意見を尊重し、提言書からは津久井4町との合併が実現した場合を想定した地域自治区の検証に関する記述を削除することとしたい。

日原委員：提言書としては、この修正案で良いかと思われる。ただし、提言書への反映とは別にして、「パートナーシップ」に関する項目で、「学校支援ボランティアや博物館ガイドなど、個人として公益的活動に従事できる市民を登録し、随時その活動を行ってもらえるような制度についても検討する必要がある」と記述しているが、例えば、ポイントカードなどを作り、登録した市民に加算するなど何らかのインセンティブを導入することで、提言の実現化に向けた次の段階へ進むことが可能となるのではないかと。市に対しては、小さなことでもできるものから始められることを望みたい。

野中副委員長：「歳入の増加策」について、企業活動を展開しやすい環境整備は、企業が成長するために、どのようなアドバイスが必要かを考えていかなければならない。相談などでよく言われるのは、成長する企業や良い企業でなければ応援できないという。企業は経営相談に来ているのだから、前向きに検討してもらえよう受け皿を作ってもらえれば、企業活動もスムーズに展開できるのではないだろうか。

辻委員長：野中副委員長の意見の趣旨は西本委員とほぼ同じと考えられる。表現の仕方はあるが、歳入の増加策について、吉田委員の意見も含めて、預からせていただき、提言書に盛り込んでいきたい。

赤柴委員：この提言書の修正案の内容については概ね良いと思われる。

辻委員長：以上、提言書の最終まとめについては、字句の修正等の調整は私と事務局に任せていただき、本日の皆さんの意見を踏まえて、次のとおり修正を行うこととする。

- ①「都市内分権」の項目について、津久井4町との合併が実現した場合を想定した地域自治区の検証に関する記述を削除する。
- ②「歳入の増加策」の項目について、企業活動を展開しやすい環境整備に関する記述をより具体的に表現するとともに、市として財源確保に努めることの必要性を加筆する。

また、提言書の市長への提出日は、予定どおり1月13日とする。

次に、もう一つの論点である都市経営ビジョンにキャッチフレーズまたは愛称的なものを付けることについて、事務局から提示する案をたたき台に議論していきたい。

(事務局よりキャッチフレーズ案の説明)

野中副委員長：キャッチフレーズは委員会の提言としては不要ではないか。

津川委員：提言の内容を分厚くするために、大まかな考え方を示すキャッチフレーズはあっても良いと思われる。

吉田委員：キャッチフレーズは、あればあったで良いかと思われるが、なくても提言に遜色はない。ただし、基本目標を打ち出すとしたら、これまでの官と民の直列型の都市経営から並列型へ転換し、官は民に近づき、民も官に近づくというイメージが良いかと思われるが、そのイメージに合ったキャッチフレーズはなかなか見当たらない。

日原委員：キャッチフレーズはあった方が良いと思われる。ただし、打ち出すとしたら、もっと生々しい表現にし、これまでと違った視点を示した方が、読んでみようかという気持ちにもなるのではないか。事務局の提示する3つの視点のうち、都市間競争に勝ち抜くという表現はインパクトがあって良いが、その他の2つの視点はアイキャッチとしては弱い。もう少しアグレッシブな表現を用いると良いものができると思われる。

松田委員：キャッチフレーズは読み手の受止め方でそれぞれ印象が違う。言い出したらきりがなく難しいと思われる。ただし、作るとしたら、読み手である市民が、都市経営ビジョンが今までとどこがどう変わるかが分かるような表現にした方が良い。

西本委員：キャッチフレーズはないよりはあった方が良い。吉田委員の言われるように、基本目標は、官と民の関係が伝わってくるものが必要である。視点についても、もう少し読み手に印象深く伝わる表現にした方が良い。

赤柴委員：普通の市民の立場で読むと、事務局の案にある基本目標で「生き生き市民力で創る新たな都市経営」という表現には、抵抗感がある。市民力を行政側から言うのはいかがなものか。

辻委員長：皆さんの大方の意見は、都市経営ビジョンに、何らかのキャッチフレーズを付けた方が良いということだが、市に対しては、都市経営ビジョンにインパクトのあるキャッチフレーズを付けていただく形で宿題とし、申し送りとしたい。

《決定事項》

1 提言書のまとめについて

◆字句及び内容の修正等は、辻委員長と事務局で最終調整を行い、市長への提言日は予定どおり1月13日に行うこととする。

2 策定委員会の運営について

◆柴田委員より辞任の申出があった。

《さがみはら都市経営ビジョン策定委員会委員名簿》

出欠	氏名	選出区分
出	辻 琢也	学識経験者(政策研究大学院大学)
出	野中 保	団体推薦(相模原市自治会連合会)
出	吉田 修一	団体推薦(相模原商工会議所)
出	西本 敬	団体推薦(相模原ボランティア協会)
出	赤柴 美重子	公募委員
出	津川 恒久	公募委員
出	日原 一智	公募委員
出	松田 宏	公募委員